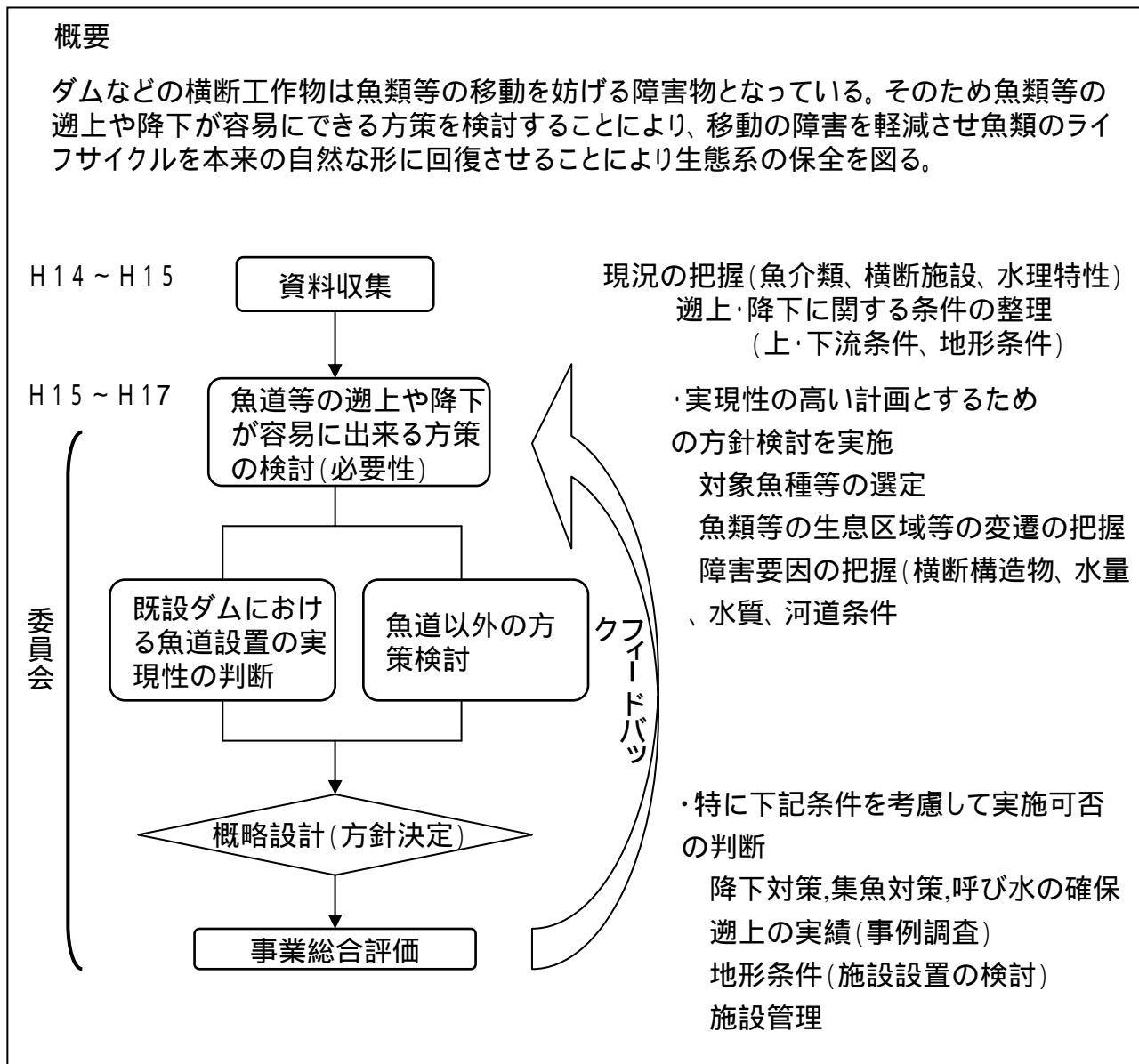


魚類等の遡上・降下が可能な方策を検討	
<p>具体的な整備内容</p> <p>・既設ダムにおいて、魚類等の遡上・降下が可能な方策を検討する。</p> <p>瀬田川洗堰、天ヶ瀬ダム、高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダム、一庫ダム</p>	<p>スケジュール</p> <p>Legend: — 検討, - - - 実施</p>
<p>実施内容</p> <p>瀬田川洗堰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象魚種の選定 ・魚道での対策施設の検討 効果・施設配置 ・魚道での対策不可の場合の代替案の検討 	



委員会等からの意見

「整備計画進捗状況報告」においては、「瀬田川洗堰における魚道の必要性を検討中」とのみある。どのように何を検討しているのかが示されなければ、「整備計画進捗状況報告」にはならない。少なくとも天ヶ瀬ダムの場合のように示し、現在までのその検討結果を明示しなければならない。

このとき魚道の必要性を検討する以前に、魚道設置に伴う生態系の攪乱が予想されることに鑑み、魚道をつくることの可否について十分な検討が必要であることは言うまでもない。

また、琵琶湖とそれに流入する河川を含め、直轄でない河川にあるすべてのダム・堰等についても、その整備は全体として検討しなければならないことは、「基礎原案に係る具体的な整備内容シートについての意見書」において指摘したにも係らず、「基礎案に係る具体的な整備内容シート」に記載されておらず、さらに今回の「進捗状況報告書」でも扱われていないことは、極めて遺憾である。直ちに「検討」に入りたい。

進捗状況

瀬田川洗堰の魚道設置について、平成15年度に概略検討を実施した。

瀬田川洗堰の約5km下流は、天ヶ瀬ダム貯水池であり、魚類の遡上・降下の連続性を図るには、天ヶ瀬ダム魚道と連携して考える必要がある。

今後の見通し等

明治38年に最初の瀬田川洗堰が設置されて100年になり、旧洗堰にはウナギ用魚道が設置されていたものの、瀬田川洗堰の上下流ではそれぞれの生態系が形成されており、魚道を設置した場合、その生態系(特に琵琶湖固有種)にどのような影響があるのかを、更に詳細な検討が必要であり、天ヶ瀬ダムで実施している「天ヶ瀬ダム魚類等遡上・降下影響評価検討委員会」等の結果を踏まえ検討していく。

●進捗状況

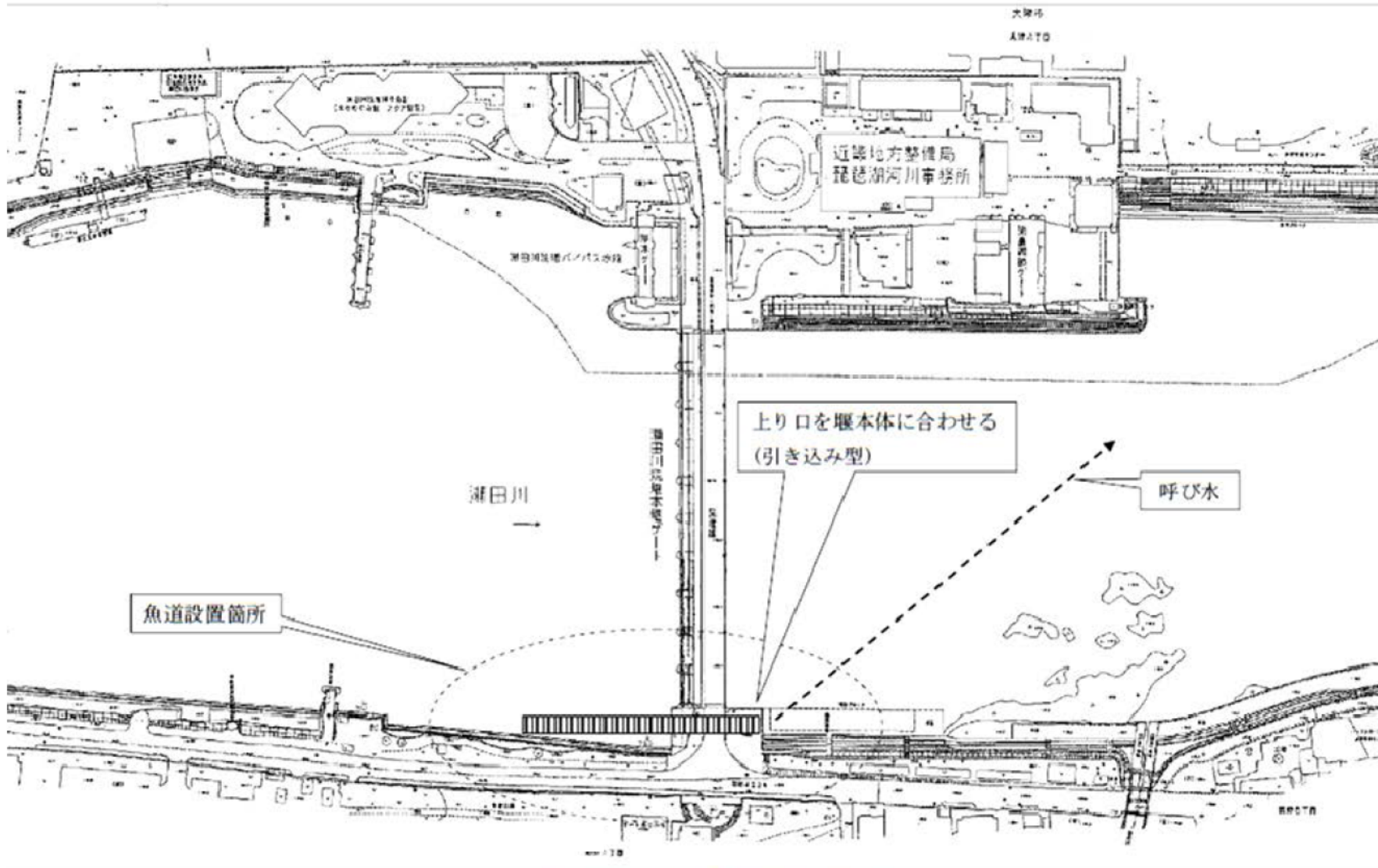
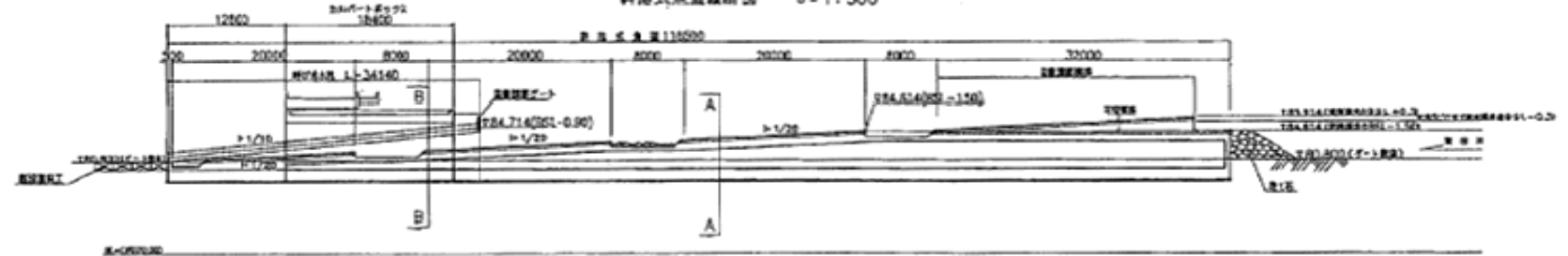


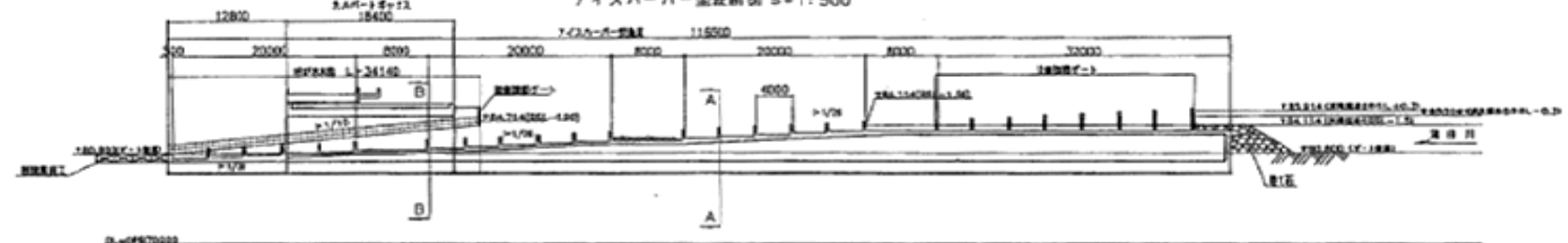
図-4.3.5 瀬田川洗堰の魚道設置位置

複合型魚道一般図

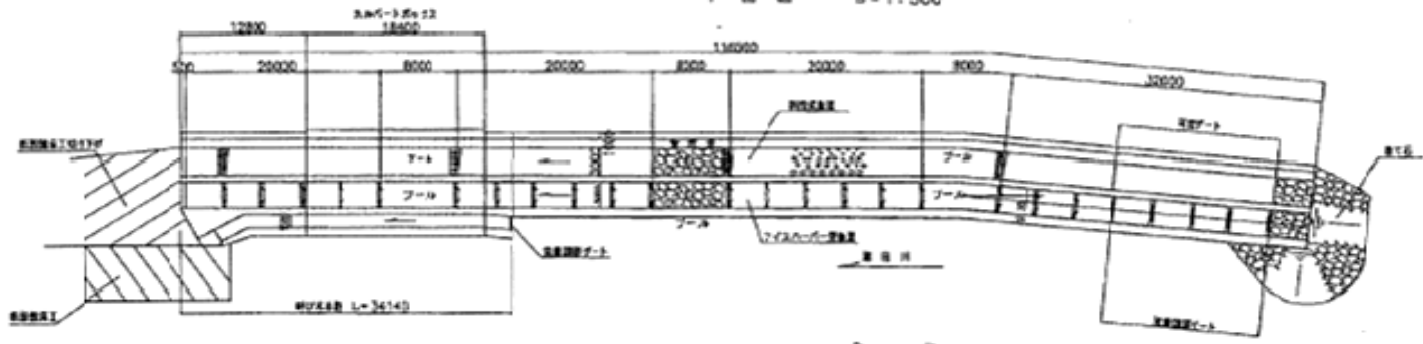
斜路式魚道断面図 S=1:500



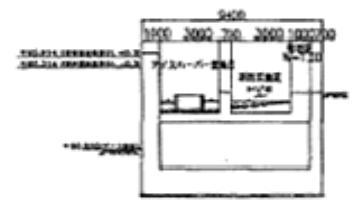
アイスハーバー型断面図 S=1:500



平面図 S=1:500



A - A S=1:250



B - B S=1:250

